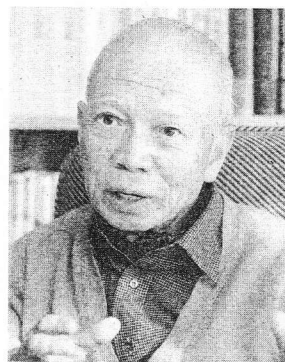


# 父に代わり

# 戦争伝える

## 「平和の尊さ次世代へ」

「父は戦争の実態を伝えるために作家になった」。2007年に亡くなった作家の城山三郎さんの次女、井上紀子さん(57)は父の思いを受け継ぎ、平和を訴える活動を続けている。戦後71年を迎え戦禍の記憶の継承が課題となるなか「次の世代に伝えていくのは戦争体験者を見てきた我々世代の責務だ」と決意を新たにしている。



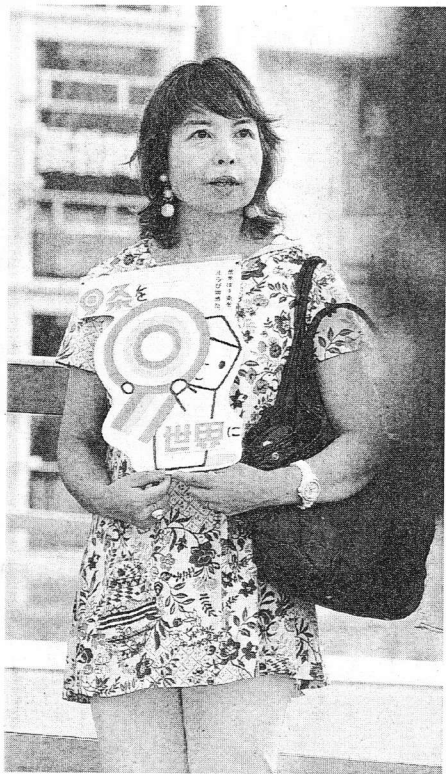
城山三郎(1927〜2007)名古屋生まれ。本名は杉浦英一。

愛知県立工業専門学校(現名古屋工業大学)に入学後、海軍に志願入隊した。復員して現在の一橋大に入り、卒業後は愛知県の大学で講師などをしながら同人誌に参加した。1957年「輸出」で文学界新人賞、59年「総会屋錦城」で直木賞。経済小説の開拓者として旺盛な執筆を続けた。ほかの主な作品に「落日燃ゆ」「男子の本懐」「官僚たちの夏」「雄気堂々」など。

城山さんは経済小説で有名だが「作家としての原点は戦争だった」と井上さん。戦争の「大義」を信じ、敗戦の3カ月前、17歳で海軍特別幹部練習生に志願入隊した。しかし、

体験したのは下士官の非人間的なじめ、玉砕を繰り返すしかなかった戦争の実態、国家の個人に對する裏切りだった。戦争が長引けば水中特攻隊員として亡くなっていった可能性もあったという。井上さんは「父は戦後なぜ自分は生き残ってしまったのか悩んだ末、戦争を語り継ぐために生かされたと考ええるようになった」と話す。

### 作家・城山三郎さんの娘



ただ、家族に戦争の話をしたのは「指揮官たちの特攻」を書いていた晩年だった。「つらすぎて口にできなかったのかも」しれない」と井上さん。

長崎原爆忌の今月9日、JR茅ヶ崎駅前(神奈川県茅ヶ崎市)に、「核

兵器の廃絶を」「戦争させない」などのメッセージカードを掲げた市民団体「九条の会・ちがさき」などのメンバー約30人が集まった。その中に井上さんの姿もあった。

今年6月には約1000人が参加した「9条かながわ大集会」の実行委員長も務めた。集会では「父は亡くなる直前、『あの戦争で得たのは憲法9条だけだ』と絞り出すような声で話していた」と語り、平和憲法を守る決意を訴えた。

戦後71年、多くの戦争体験者は既に亡くなった。井上さんは「子供や孫に二度と戦争を起こしてはならないと伝えていく責任を痛感している」と話している。

父で作家の城山三郎さんの遺志を受け継ぎ、街頭で平和を訴える井上紀子さん(9日、神奈川県茅ヶ崎市)